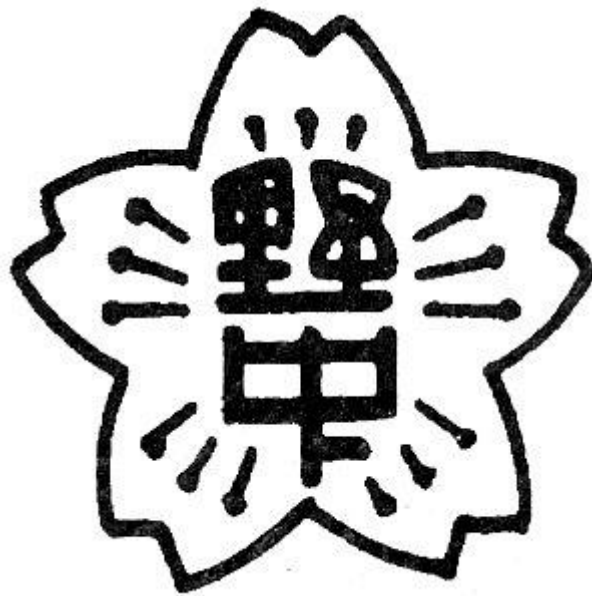


令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価



大阪市立野中小学校

令和8年3月

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

本校はここ数年、児童は全体的に落ち着いて学校生活を送り、暴力的な行動も少なく、大きないじめの事例も見られない。

一方、人数は少ないものの、不登校児童への取り組みは、なかなか改善がみられず、不登校の要因に家庭的な背景もあることなど、複雑な問題を抱えている児童もあり、解消については、容易ではない現状がある。昨年度と同様に、児童が安心して登校できる状態を学校全体として維持しながら、区の子どもサポートネットやスクールカウンセラーなど、関係諸機関と連携しながら、多方面からアプローチを行っていく必要がある。

ここ数年は、校内アンケートの「学校は楽しいですか」では、肯定的な回答が、90%以上あった学年も多くなってきている。ただ、学年によって差があるのが現状である。今年度も児童にとって、学校が楽しいものの、登校する意欲がわく場所になるよう、学校全体で取組を進めていきたい。

「学校のきまりを守れていますか」の昨年度のアンケート結果は、平均して肯定的回答が80%以上の学年が多かった。しかし、他の学年に比べ、極端に低い学年もあった。これからも継続的に規範意識を高め、児童が安心して登校できる取組を進めていく必要があると考える。

本校は、自己肯定感、自尊心が低い傾向が何年も続いてきたため、数年間、改善に向けて力を入れて取り組んでいる。昨年度の学力経年調査のアンケート結果では、「自分にはよいところがあると思う」という項目については肯定的な回答が平均して75%を超えていたが、学年ごとに見ると、際立って低い結果が出ている学年もあり、本校の課題である自尊心の向上については、今年度も、あらゆる機会や場を捉え、児童に成就感、達成感を味わわせ、児童に自信を持たせたいと考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

本校は、児童が落ち着いて学習に取り組んでいることや、算数で習熟度少人数体制の指導に力を入れ取り組んでいることなどから、先日の学力経年調査においても、実施日直前に感染症の流行があり、学級休業も出ていたことから心配していたが、大阪市の平均を上回る結果を得られる教科も少なくなかった。しかし、学年によって、また個人によって学力に大きな差があることも事実である。個に応じた指導・支援を工夫していく必要がある。

また、主体的・対話的で深い学びを進めるためには、様々な教科や場面で話し合ったり、意見を交流したりする活動を持つことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにしていく必要もある。

体力に関しては、昨年度の全国体力・運動能力調査の結果については、男子は種目別に見ると、握力、上体起こし、50m走、立ち幅とびに関しては、大阪市及び全国の平均を上回っていた。女子では握力、上体起こし、20mシャトルラン、50m走については、大阪市や全国の平均を上回っていた。

「運動やスポーツをすることが好きですか」の質問には、男女とも、肯定的回答の割合が大阪市や全国の平均より高い結果であり、取組の成果が出ていると考えられる。運動が好きで進んで運動する姿勢を育てるとともに、体力テストの結果が低かった種目に関しては、学年ごとに授業や行事、遊び時間を有効に使い、改善を促す取り組みに力を入れていくことが必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

日々、一人一台端末をどの学年も活用するようにしている。今年度も、個別最適な学びと協同的な学びを実現するために、ICTの効果的な活用の工夫を行っていききたい。

学校図書館に関しては、図書館司書との連携をとりながら、図書館の活性化を図ってきた。また、図書館ボランティアの協力もあり、昨年度は毎日開館することもできた。今年度も学校図書館をさらに有効活用し、読書が好きな児童を増やしながら、様々な学習における利活用を図っていききたい。

また、昨年度は、生涯学習やはぐみネットなど、地域の方に協力をいただき、児童の健全育成を進めることができた。今年度も、保護者や地域の方々に関わっていただく学校行事の内容を検討し、より充実した内容で実施していききたい。その様子を含め、学校の様子をホームページなどで発信し、より学校への理解と協力を得たいと考えている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の暴力行為を複数回行う児童の数を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校のきまり守っていますか」の肯定的回答をどの学年も88%以上にする。
- 令和7年度に新たに不登校になる児童の割合を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」の肯定的な回答を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、各種目の対全国比を1.00以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業において学習者用端末を毎日使用し、ICTの効果的な活用を図る。
- ゆとりの日を週に1回設定し、教員の時間外勤務の削減に取り組む。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えよう努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を85%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の暴力行為を複数回行う児童の数を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校のきまり守っていますか」の肯定的な回答をどの学年も88%以上にする。
- 令和7年度に新たに不登校になる児童の割合を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」の肯定的な回答を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、各種目の対全国比を1.00以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ゆとりの日を週に1回設定する。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を79%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を85%以上にする。

大阪市立野中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答を80%以上にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 令和7年度の校内調査の暴力行為を複数回行う児童の数を0にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校のきまり守っていますか」の肯定的回答をどの学年も88%以上にする。 ○ 令和7年度に新たに不登校になる児童の割合を0にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」「すすんであいさつしていますか」の肯定的な回答を90%以上にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童が安心して落ち着いて学校生活をおくれるよう規範意識を高める。</p> <p style="text-align: right;">()</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の規範意識を高める機会を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回の「ふり返り週間2ウィーク」を設ける。 ・ 年に2回の児童会による「あいさつ運動」「身だしなみ強調週間」の取り組みを行う。 ・ 毎回の児童朝会で啓発する。 ・ 看護当番によって登校時と休み時間に啓発する。 ・ 年に3回のアンケートで規範意識の高まりを調べる。 (すすんであいさつしよう。身だしなみを整えよう。) ○ いじめに対する取組を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ相談機能を活用し、いじめ対策委員会で情報を共有し対応する。 ・ いじめアンケートを学期に1回実施する。 ・ いじめ防止強調週間を設け、互いの良さを認め合い、いじめを未然に防ぐ。 	B

<p>○不登校児童に対して組織的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と密に連絡を取り、連絡記録簿に記入し、職員間で情報共有できるようにする。 ・生活指導部会や不登校対策委員会を開き、早期発見に努めるとともに家庭ごとに応じた対応を学校全体で共有し取り組む。 	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童一人一人が自分に自信を持ち、人の役に立ちたいと思うことで前向きに取り組もうとする意識を育てる。 ()</p>	
<p>指標</p> <p>○道徳科の教科書の内容項目に学習重点項目を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主として人との関わりに関すること」の「親切・思いやり」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」を重点項目にする。 ・低学年からの意識の高まりを調べるために、令和7年度の学校生活アンケートに「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」を加え、重点項目の学習を学校生活アンケート実施前には行うようにする。また、生活振り返り週間や学校生活アンケートの結果から分かる児童の実態に合わせて、道徳科の学習内容の順番を入れ替えて、取り組む。 <p>○学年の児童の実態に応じて、児童の自信に繋げられる取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさを知る取り組みや「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」の取り組みを行い、自分も相手も互いに大切にすることを学ぶ。 ・人権教育で、毎年実施している学習参観日に行う道徳科の取り組みを、5月の「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」と関連付けて4月もしくは6月の参観日に実施できるよう努める。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容】①について 概ね計画通りに取り組めた。生活振り返り週間を実施することで「学校の決まりを守れている」と肯定的に感じている児童が93.5%となり、目標を達成することができた。 大きないじめ問題はないが、児童同士のもめごとがよく見られる。 不登校児童に関しては、保護者と連絡は取れており、生活指導部会やケース会議などで情報共有ができています。しかし、連絡記録簿に関しては徹底できていない。</p> <p>【取組内容】②について 計画通りに進めることができた。参観日に道徳科の取り組みを行ったり、5月に「いじめについて考える日」「いのちについて考える日」の人権教育に関する取組を行ったりしたことで、他者を大切に思う豊かな心が育ちつつある。</p>	

次年度への改善点

【取組内容】①について

- ・ 強調週間以外でも意識できる取組の工夫が必要。
- ・ 遅刻のこともたびたび挙がっていたので、次年度に取組内容に入れることも検討していく。
- ・ 児童理解など、教員の資質を上げる研修を行ってはどうか。
- ・ 不登校連絡記録簿の作成を丁寧に行い、活用できるようにする。

【取組内容】②について

- ・ 道徳の授業などを通して、児童の自信につなげられるような取組や他者を大切にすること意識が高まるような取組を今後も引き続き行っていく。
- ・ 継続して行うとともに、常に実態を見ながら機会をとらえて取り組んでいく必要がある。

大阪市立野中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ○ 令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、各種目の対全国比を1.00以上にする。 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。 ○ 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」を追求し、個に応じた指導の充実を図る。 ()</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 習熟度別学習を実施し、発展活用を重視するコース、基礎基本の定着を重視するコースなど、児童が自分に合ったコースを選べるようにして、学力の定着を図る。また、個別最適な学びができるよう、学習端末を持って帰り自分に合った家庭学習ができるようにする。 ○ 考えを深めたり、広げたりできるように、ペア、グループ、全体で意見交流を1日に1回は取り組む。 ○ 教員の授業力を高めるために、計画的に研修を進めていく。また、若手研修を学期に1回実施し、指導力向上を図る。若手研修については年数に関係なく希望者は参加できるようにする。 ○ 英語に慣れ親しむために、外国語の教材の充実を図る。 	B

<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>児童が進んで楽しく運動できるよう、授業や遊び時間等の工夫を行う。また、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。()</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童がいろいろな運動に親しむ機会を増やすために、竹馬や一輪車などが得意な児童が発表する場を作る。 ○昨年度の体力テストで良くなかった項目（反復横跳びとソフトボール投げ）の得点を向上させるために、手立てを考えて実践する。 ○運動の楽しさを味わうことができるように、遊びの幅を広げたり、授業の指導法を工夫したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊びカードを作成し、様々な遊具を使って遊ぼうとする意欲を育てる。 ・運動が得意な児童が、苦手な児童に教える場を作り、どちらの児童も達成感を味わうことができるよう工夫する。 ○清潔しらべを毎週1回実施し、感染予防の意識をもつことができるようにする。また、結果を児童に返すことで、更に意識を高めることができるようにする。 	B
<p>取組内容()</p>	
<p>指標</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容】①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習で自分に合ったコースを選ぶことで、児童の自信につながっている。 ・ペアやグループトークは効果的で、対話が増え、友だちのよいところも認めあえるようになった。 ・Navima 等を活用して個別学習や家庭学習が進んだ。 ・主体的に考えさせる課題設定が、児童の個人差によってうまくいかない場面もあった。 ・教員の授業力を高める研修や、道徳所見や生成 AI などの若手研修を計画通り進めることができた。 <p>【取組内容】②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童朝会でなわとびの技の紹介があり、児童のやる気が向上していた。 ・体力テストで弱かった部分を重点的に練習したことがよかった。 ・秋の体力テストで伸びなかったところを、体育の時間や遊びの時間に取り入れることにより、学習意欲が高まった。 ・清潔調べを週一回行うことで、感染予防の意識を持つことができた。 ・清潔調べの結果を学級にフィードバックすることで、意識を高めることができた。 	

次年度への改善点

【取組内容】①について

- ・児童が主体的に学ぶことができる発問や授業づくりを教員同士が模擬授業などを行って研鑽を積む。
- ・児童が対話の中で意見交流もできるように工夫していく。
- ・若手が研修に行きやすい環境づくりを進める。
- ・全教員でも生成 AI や SNS トラブル防止の研修をする。

【取組内容】②について

- ・運動の楽しさを味わうことができる遊びの研修や体育の指導に生かせる研修を計画していく。
- ・次年度は、遊び紹介カードを作成する。
- ・固定遊具強調週間をつくる。
- ・早寝早起きを啓発し、遅刻を減らす。
- ・清潔調べがマンネリ化しているため、新しい取り組みを考える。

大阪市立野中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く） ○ ゆとりの日を週に1回設定する。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を79%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を82%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX】</p> <p>ICTを効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、個別最適な学びおよび協同的な学びを進めていく工夫をする。（ ）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業で毎日学習者用端末を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じて教科書の問題を端末で解答させたり、デジタルドリルで問題に取り組みせたりして、学力の定着を図る。 ・児童用デジタル教科書（5，6年 算数・英語）を活用する。 ・ICT支援員をクラスに割り当てて活用する。 ○指導者用デジタル教科書を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビに映し、視覚的にもわかりやすくして学力の定着を図る。 ○教員のICT研修を実施し、活用能力を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修日を学期に1回開く。 ・ショート研修によって教員のICT活用能力の向上を図る。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>学びの場として、学校図書館を活性化し、授業での様々な学習における利活用を促進する。（ ）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日昼休みに図書委員会による図書館開放をすることで、読書をする環境を整え、本を読む機会を増やす。 ○年に1回読書週間を設け、全校児童で本の紹介カードを書き、読み合うことで読書への興味関心を高めるようにする。 ○図書館だよりで面白い本や楽しい本の紹介をし、本に関する知識を増やすようにする。 	B

<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】 保護者や地域との交流を深め、地域の一員としての自覚を高めるとともに、学校の様子をより理解してもらえよう情報発信の仕方を工夫する（ ）</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との交流を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ・昔あそび・収穫祭・おもいパーティー・ステンシル体験・リバーウォッチャー等 ○学校だよりを地域で回覧してもらう。 ○学校ホームページで情報を発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの閲覧数を1週間で100以上にする。 ・学校だより・学年だよりを学校ホームページで閲覧できるようにする。 ○学校からの配布プリントをミマモルメで配信し、保護者が必要な時に閲覧できるようにする。 ○地域とのボランティア活動(縦割り班清掃・地域清掃など)を実施する 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容】①について 児童用の学習者用端末を国語や音楽などでも活用できている。また、クラブ活動や委員会活動でも活用することができた。</p> <p>【取組内容】②について 図書委員会や図書館司書による図書館開放や地域の方の読み聞かせを通して、児童が本に親しむことができるようになり、また、読書週間では、本の紹介カードを書いたり読んだりする活動を通して児童の読書への関心を引き出すことができた。</p> <p>【取組内容】③について 地域と活発に交流し、様々な体験活動に取り組むことができた。また、地域清掃やたてわり班清掃を通して、児童が地域の一員としての自覚を持つこともできた。 配布プリントは、基本的にミマモルメで配信するようにし、保護者が必要な時に閲覧・確認することができるよう工夫することができた。 学校ホームページについては、学校の視聴覚端末以外で写真を撮ってはいけないことになり、活動の様子について写真を載せた記事の更新が減った。</p>	
次年度への改善点	
<p>【取組内容】①について 児童が普段から学習者用端末を使うことが当たり前のようにしていくことができたが、使い方や情報モラルについてしっかりと指導をしていく必要がある。情報量が増えてきたこともあり、活用していくにあたり、取捨選択をしていく必要がある。また、生成AIが教育にも取り入れられることが増えてきて、どこまでを取り入れていくのかを十分に考えて活用していく必要がある。</p>	

【取組内容】②について

図書館開放や読書週間等、児童の読書への関心を引き出す取り組みを引き続き行っていく。あわせて、図書や図書室に関してのマナーの指導も行えるように工夫していく。

【取組内容】③について

地域との交流を今後も深めて取り組んでいく中で、これまでの活動に加え、各学年が地域との交流体験活動ができるよう工夫していく。学校ホームページに関しては、児童の活動に取り組む様子を記事にして発信しやすいよう学校の視聴覚端末を整備していく必要がある。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立野中小学校学校協議会

1 総括についての評価

学校の自己評価は、中期目標及び年度目標の達成状況について B となっていたが、説明を聞き、ほぼ達成できているという印象を受けた。学校として、自ら A と自己評価しづらいと思うので B となっているようだが、よい結果であると思っている。

学校として、長年大きな課題であるとしている児童の自尊感情についての結果は、今年度は、少し下がったようだが、改善傾向は変わらないようで、ありがたく思っている。学校が力を入れて取り組んできた様子がよくわかった。

2 中期目標・年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

中期目標・年度目標：【安全・安心な教育の推進】

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の暴力行為を複数回行う児童の数を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校のきまり守っていますか」の肯定的回答をどの学年も88%以上にする。
- 令和7年度に新たに不登校になる児童の割合を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校に行くのは楽しいですか」「すすんであいさつしていますか」の肯定的な回答を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

学校協議会

○ 自己肯定感については、昨年度より少し下がったようだが、取組を進めている数年間、右肩上がりの改善傾向にあり、一時的なものと思われる。不登校児童については、家庭的な影響が大きい事例が多いようで、学校での対応の難しさを感じる。区役所と連携するなど、家庭に介入できる立場の機関と連携して進めていくことが必要であると思う。

中期目標・年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に

回答する児童の割合を75%以上にする。

- 令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、各種目の対全国比を1.00以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

学校協議会

- 学力経年調査の結果は、大阪市の平均や全国の平均を超える教科も多くの学年で見られ、学校の学力向上の努力が実を結んでいると感じている。質問紙の自己肯定感の結果については、昨年度より低くなってしまった学年もあるが、人の役に立ちたいと思う児童も多くおり、とても安心感を得られた。継続して、取組を続けるということなので、期待したい。
- 全国体力運動習慣調査の結果も報告していただき、記録を伸ばすための取組も進めていることがわかった。体育の授業だけでなく、休み時間は外に出て遊ぶように促すなど、遊びの中でも、体力がつくように声をかけてほしい。

中期目標・年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ゆとりの日を週に1回設定する。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を79%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を82%以上にする。

学校協議会

- 様々な地域の団体が学校の取り組みに参加・支援しているが、児童が生き生きと取り組む様子に好感が持たれる。学校の要望に応えられるよう、地域として、これからも協力していきたい。
- 学校の努力により、保護者が学校に行く行事も多く設定され、教職員が児童のために、頑張っている様子がよくわかる。これからも協力していきたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 学校が子どもたちのことを真剣に考え、教職員が精いっぱい努力している様子がわかり、感謝している。
- 地域でできることがあれば、これからも協力していきたい。
- 地域・区役所・保護者で学校の運営にこれからも支援・協力していきたいと考えている。